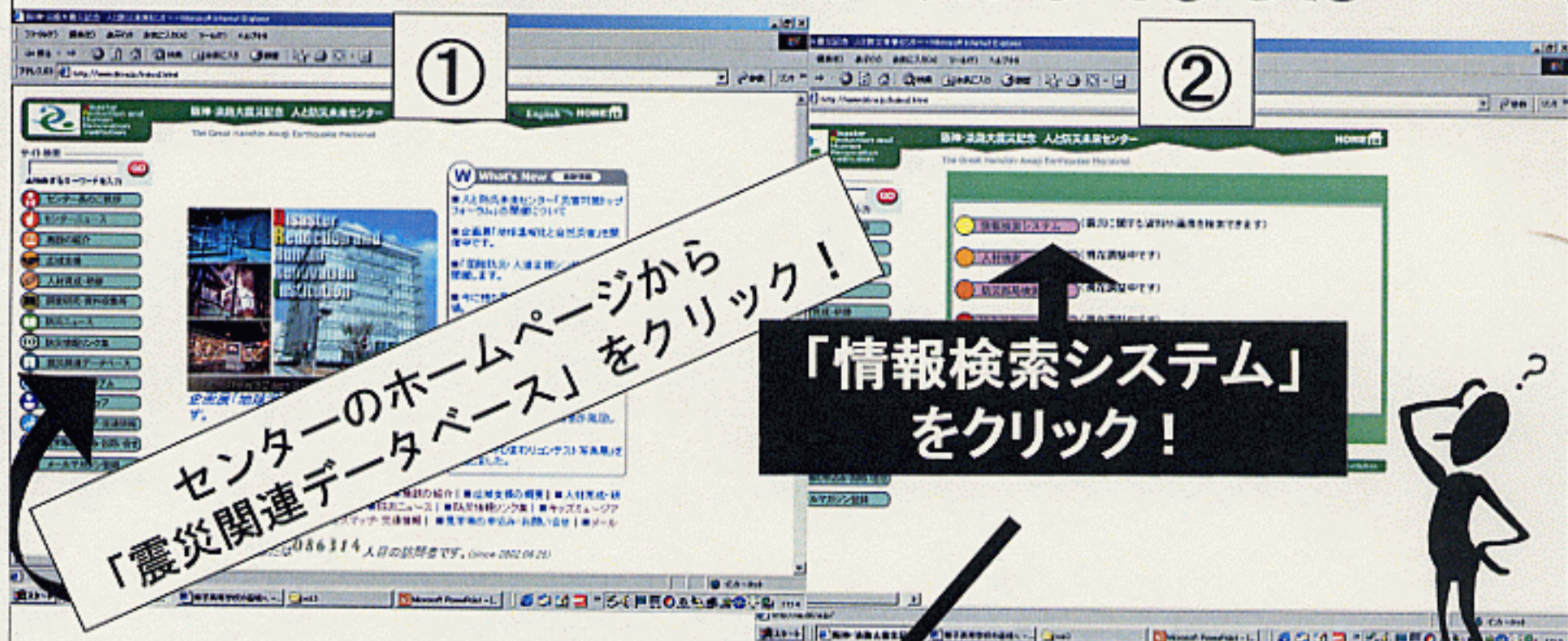


# 資料室 ニュース Vol. 4

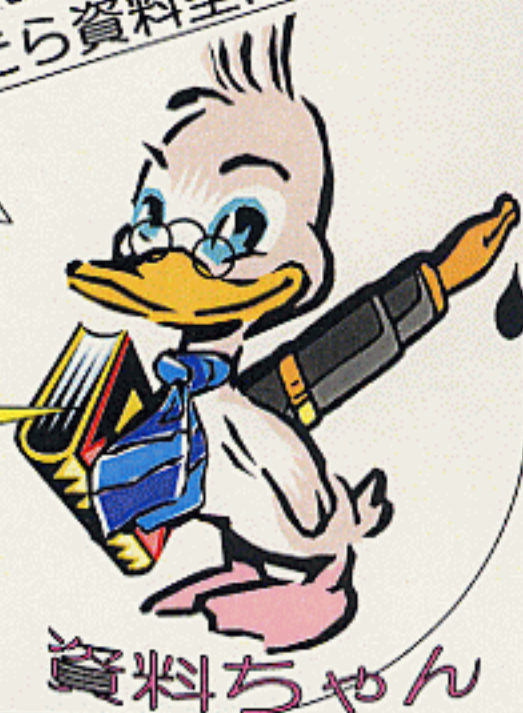
2002年12月27日発行

今月の資料ちゃんからのお知らせ

人と防災未来センターのホームページ上で  
資料室の本が検索できるようになりました！！



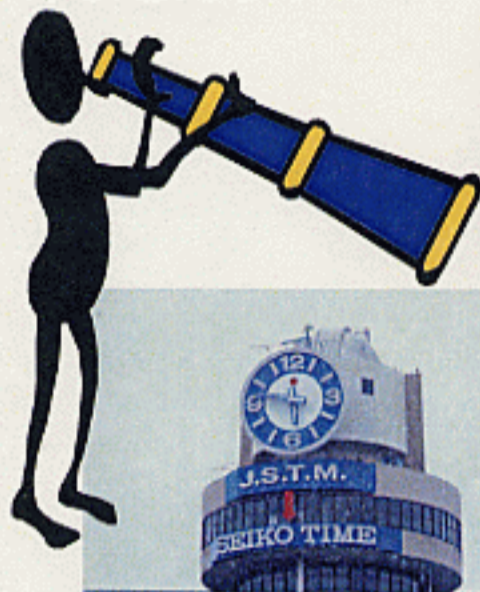
お家にも本が調べられるよ！  
読みたい本があったら資料室に来てね！



## 震災当時を振り返って・・・

阪神・淡路大震災から8年が経とうとしています。神戸の街も復興が進み、震災の面影は年々少なくなってきました。

8年経った今、当時の状況をちょっとだけ振り返ってみませんか？



## 阪神・淡路大震災とトイレ



普段から使っているトイレ・・・

使えない状況を考えてことがありますか？ 非常時！と考えると、食べ物がない・・・と思いがちですが、排泄は盲点になりがちです。家が壊れ、水がない、ライフラインが切断された状況でもトイレには行きたくなりますよね。阪神・淡路大震災時のトイレパニックを知り、災害時には何が必要かももう一度考えてみませんか？

『阪神大震災 トイレパニック 神戸市環境局ボランティアの奮戦記』

(5-E・セイ・13069)

阪神・淡路大震災時のトイレパニックの現状を詳しく述べてある本です。自分たちで作りに上げられたトイレ、届いたトイレがどう使われたか、仮設のトイレの衛生状況などを、トイレフォトストーリーと言われる小写真集を見ることで、より詳しく理解することが出来ます。

『震災時のトイレ対策 一あり方とマニュアル』

(5-E・セイ・13066)

阪神・淡路大震災の教訓からトイレ問題を、広い視点から見る事ができる本です。専門家による避難所、病院、施設等のトイレ衛生対策や、災害弱者へのトイレ安全対策などを知った上で、オリジナルの災害時のトイレパニック対策を考えて見ませんか？

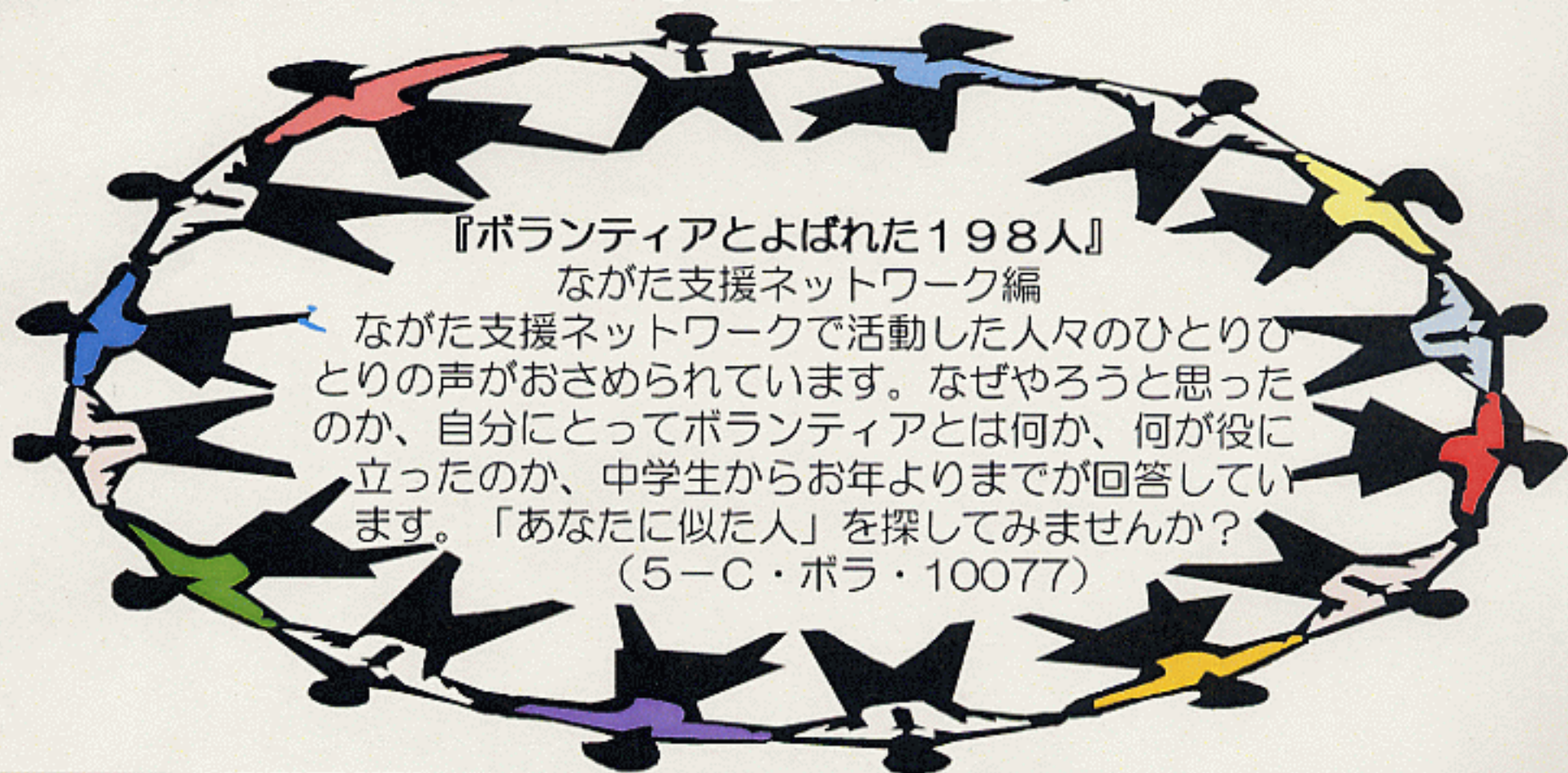
また、災害時のトイレを考える前に、普段使っているトイレを見直してみてもはどうでしょうか？



# 阪神・淡路大震災とボランティア

様々なボランティア活動や自発的な防災活動への認識が阪神・淡路大震災をきっかけに始まりました。阪神・淡路大震災のときは、全国から支援が寄せられ、多くのボランティアたちが被災地へ駆けつけました。これをうけて、毎年、1月17日を「防災とボランティアの日」、1月15日から21日を「防災とボランティア週間」とされました。

一言でボランティアといっても、いろんな活動内容があり、いろんな人がかかわっています。当時のボランティアについて思い出してみませんか。



## 『ボランティアとよばれた198人』

ながた支援ネットワーク編

ながた支援ネットワークで活動した人々のひとりひとりの声がおさめられています。なぜだろうと思ったのか、自分にとってボランティアとは何か、何が役に立ったのか、中学生からお年よりまでが回答しています。「あなたに似た人」を探してみませんか？

(5-C・ボラ・10077)

## ボランティアの人数と活動内容

期間	日数	1日の平均のボランティア人数			計	累計
		避難所	物資の搬出・搬入	炊き出し準備、地域活動等		
1/17~2/17	31日間	12,000	3,700	4,300	20,000	620,000
2/18~3/16	27日間	8,500	1,500	4,000	14,000	1,000,000
3/17~4/3	18日間	4,600	400	2,000	7,000	1,130,000
4/4~4/18	15日間	1,600	100	1,000	2,700	1,170,000
4/19~5/21	33日間	750	10	340	1,100	1,206,000
5/22~6/20	30日間	390	310		700	1,227,000
6/21~7/23	33日間	330	470		800	1,253,400
7/24~8/20	28日間	220	580		800	1,275,800
8/21~9/20	31日間		900		900	1,303,700
9/21~10/20	30日間		600		600	1,321,700
10/21~11/20	31日間		600		600	1,340,300
11/21~12/20	30日間		500		500	1,255,300
12/21~1/20	31日間		700		700	1,377,300

(避難所緊急パトロール隊による実態調査、各市町対策本部への電話照会、活動団体への電話照会をもとに算出)

1月17日から3月16日までの2ヶ月間で延べ100万人にのぼった。

『阪神・淡路大震災—兵庫県の1年の記録』平成8年6月 1-B・チジ・483